



“日光女性会”にインタビュー

「ふきのとう」を発行し、歴史をきざむ

子どもは社会の宝 地域の子どもは、地域で見守り育てよう

質問 女性会発足時期と目的についてお聞かせください。

会員 昭和五十四年、公民館リーダー研修を受講した四人が発起人となり連絡会を発足。五十七年連合婦人会に加入。平成十一年から女性会となりました。お嫁さん同志どの誰かわかるようになります、そのことが一番で、日光のよさ、人柄、地域性を知り、輪を結び、地域の活性化につながりました。

主な活動は、町民運動会や地区大会、ふるさとまつりへの参加と協力で当初は演芸や踊りも行い大盛況でした。また、駅伝や介助のボランティア・花いっぱい運動、子ども達、高齢者や地区の人達との交流、町内外への研修など行っています。年一回、会員投稿の機関紙「ふきのとう」を発行し、それを読むとその時々の歴史が想われます。**質問** 会員は何名ですか。これからの抱負は。



日光駅伝ランナー

会員 当時一〇〇名、現在では八〇名。体育部、社会、教養、生活の四部会で活動しています。

以前は、農業中心で、いつでも集まることができ、夜でもやたら漬をつくったり、遅くまで語り合い、大変ではあっても楽しい会でした。今、勤めが中心で若い人との間に微妙な差が生じ運営はなかなか大変ですが、公民館や地区行事の参加と協力を行っています。会員には、一ヶ月前からの予定を組み、協力をお願いしています。やりたい

ことは多々ありますが、細く長くと思っています。**質問** ボランティア的な活動をなさっていますか。行政に望まれることは。

会員 働く場所がなく若者が住まない。帰って来なさいともいえない。

働く場と若者定住を推進してください。

おわりに 会員数が減り運営のむずかしい中、議会傍聴にお出かけ頂いた



日光駅伝でのボランティア

「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

編集後記

あたりを見渡すと、もうすっかり秋の気配。集中豪雨も台風もなく、わりとおだやかなお天気の伯耆町の夏でした。

▼九月議会も終わり、「伯耆町議会は、わりと本音の出るおもしろい議会です」と、あるマスコミ関係者から森安町長に電話があったことを懇談会の席上、森安町長から話がありました。

本音？おもしろい？…これは、皆さまのご判断を頂くこととして、また開かれた議会をめざして精進いたします！

(勝部 俊徳)

【編集】

- 議会広報特別委員会
委員長 大森 英一
副委員長 渡部 勇
委員 幸本 元
委員 勝部 俊徳
委員 篠原 天

